

伊勢湾における干潟・藻場再生（漁場再生）に向けた取組



三重県農林水産部水産基盤整備課

干潟・藻場の役割、現状

干潟の役割

- 1) 水産生物の生活の場
→魚介類（二枚貝類等）の生息場、
幼稚仔期の保護育成場
- 2) 環境保全の場
→窒素、リンの吸収、有機物の分解などの
水質浄化
- 3) 景観や環境学習を提供する場
→レジャー資源（潮干狩り等）等



藻場の役割

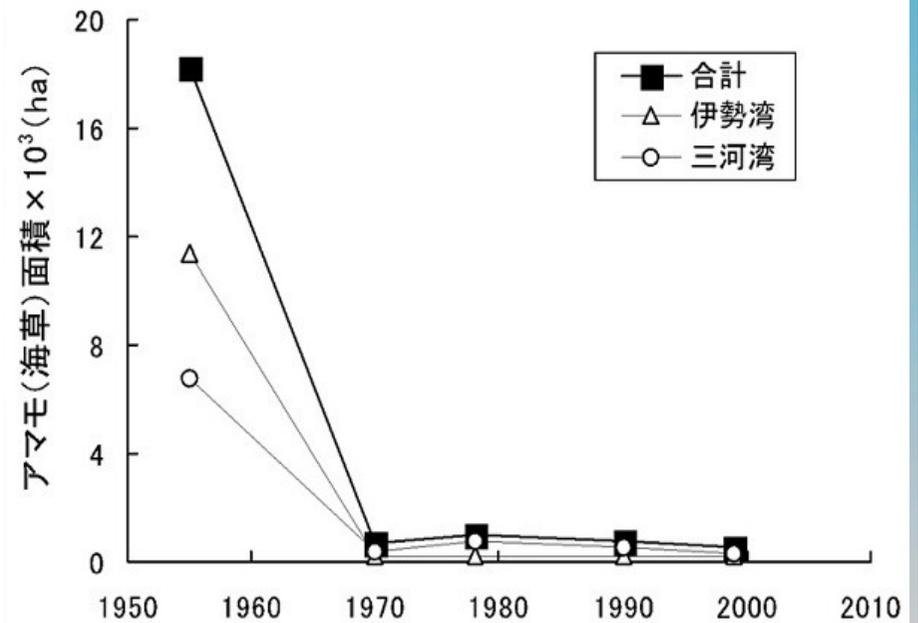
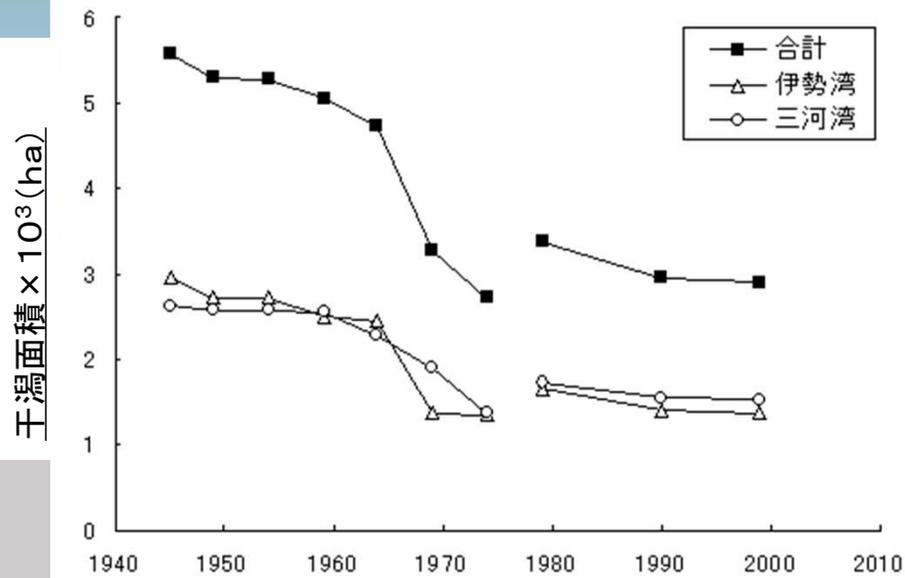
- 1) 水産生物の生活の場
→魚介類の生息場、隠れ場となり、幼稚仔期の
保護育成場
- 2) 一次生産の場・の環境保全の場
→藻体全体で窒素やリンを吸収、光合成による
二酸化炭素の吸収
- 3) 景観や環境学習を提供する場
→海中公園、海中展望施設、釣り公園などの
景観、レジャー資源



干潟・藻場の役割、現状

干潟・藻場の現状

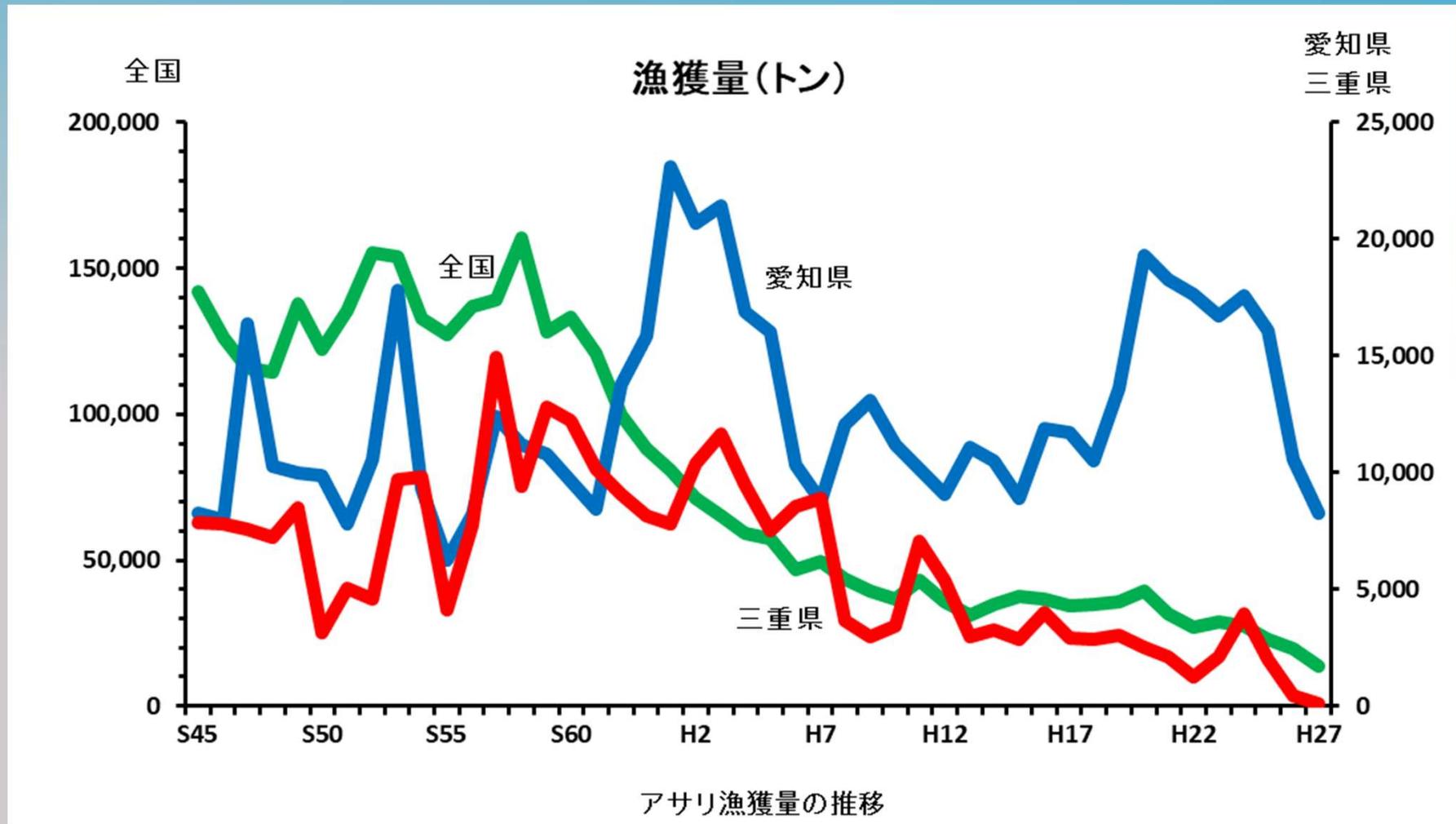
○干潟・藻場（アマモ）面積の推移



伊勢湾環境データベースより

干潟・藻場の役割、現状

アサリ漁獲量の推移



三重県での取組

三重保全二期地区 伊勢湾三期工区

- ハード事業とソフト事業が一体となった効率的な干潟の保全・創造に取り組んでいる。
- アサリ資源の増加には至っていないことから、造成した干潟での母貝の確保のため、移殖放流や着底促進等の取組を推進していく。

干潟ビジョンにおける長期的な目標(三重県)

- ・ハード整備(干潟等)
- ・ソフト対策(干潟保全活動等)



アサリ漁獲量の増産を目指す

ハード整備

伊勢湾奥(四日市地先)において、湾内に浮遊幼生を供給する母貝場となる干潟の造成

- 【実施期間】平成24年度～令和3年度
- 【実施地区】伊勢湾三期工区
- 【事業量】干潟造成 3ha
- 【事業費】225百万円



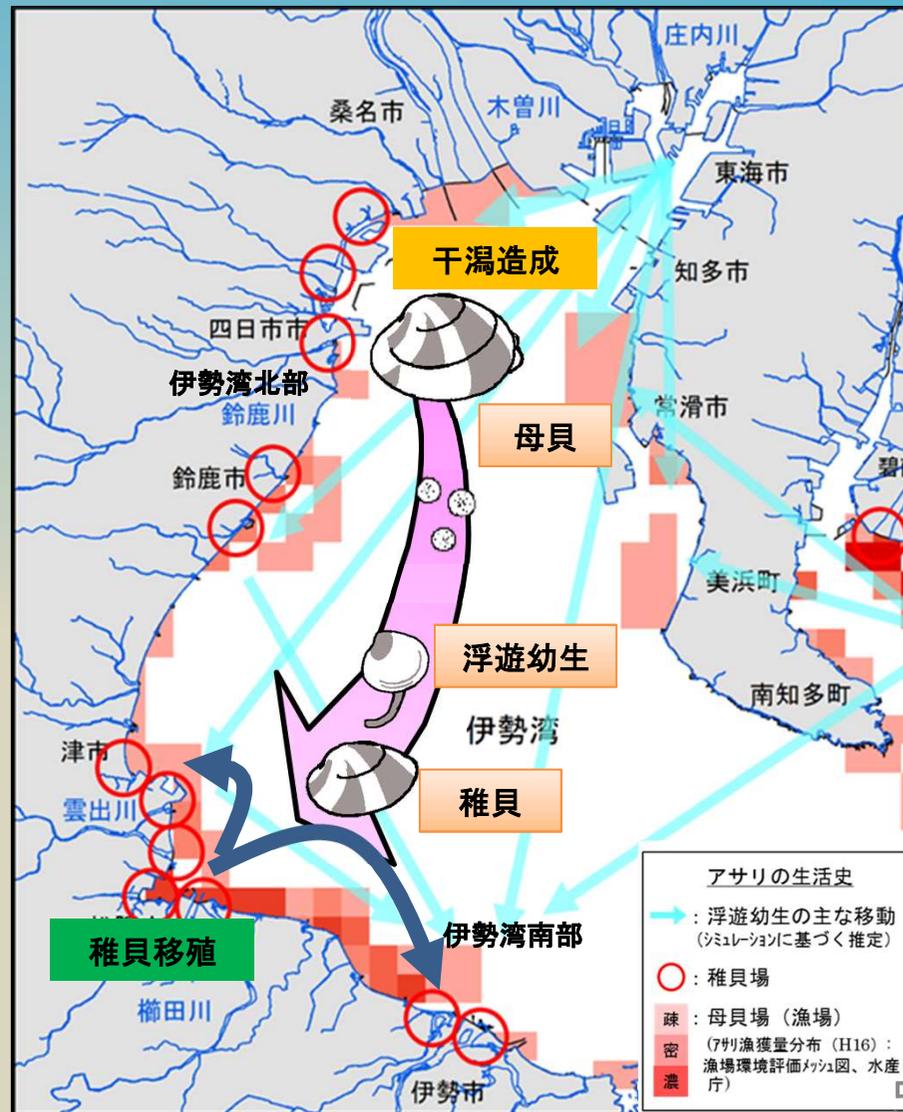
ソフト対策

漁業者による稚貝移殖や、水産多面的活動による干潟保全・モニタリング調査

【共同漁業権漁場を超えた稚貝移殖】



【底質のモニタリング調査】



三重県での取組（ハード整備）

干潟造成 伊勢湾三期工区



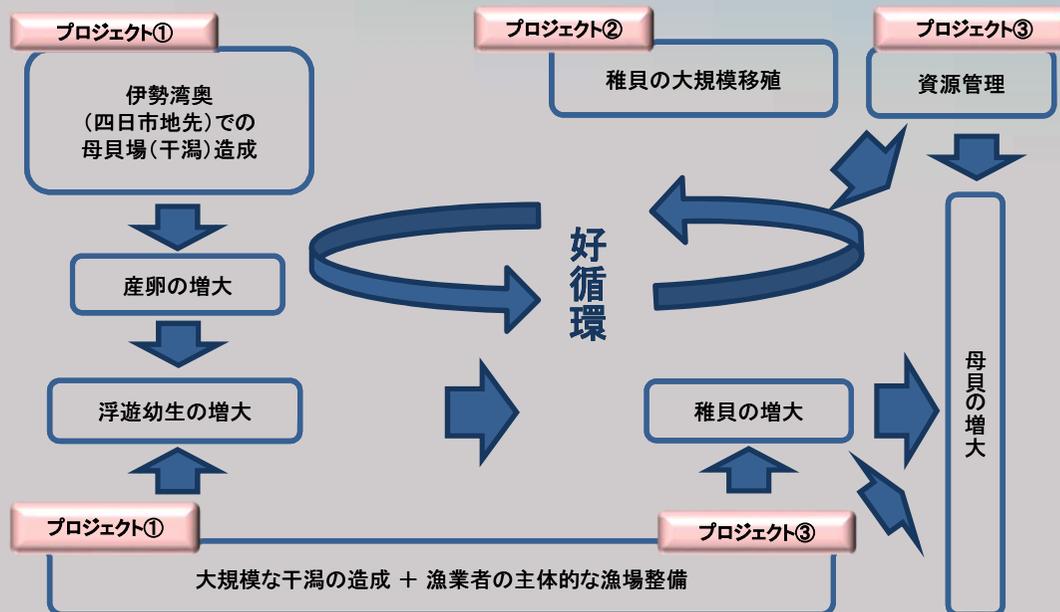
三重県での取組（ソフト対策）

ソフト対策

アサリ資源の保全・増大を図るために、関係者が協働する仕組み

- ・三重県アサリ協議会（アサリ漁業の関係者で構成）での、アサリ資源の動向や稚貝移殖等に関する情報提供及び意見交換
- ・漁業者主体の資源管理の促進
- ・アサリ稚貝移殖マニュアル（令和元年作成）の普及による、漁業者主体の稚貝移殖の促進※

※カイヤドリウミグモの寄生の確認により、発生海域から未発生海域への稚貝や干潟造成用土砂の運搬を見合わせています。



アサリ稚貝移殖放流 マニュアル



三重県での取組（ソフト対策）

事業名：水産多面的機能発揮対策事業

<対策のポイント>

環境・生態系の維持・回復や安心して活動できる海域の確保など、漁業者等が行う**水産業・漁村の多面的機能の発揮に資する地域の活動を支援**します。

<事業目標>

- 環境・生態系の維持・回復（対象水域での生物量を20%増加〔令和7年度まで〕）
- 安心して活動できる海域の維持（環境異変等への早期対応件数の割合を20%増加〔令和7年度まで〕）

<事業の内容>

漁業者等が行う、水産業・漁村の多面的機能の発揮に資する以下の取組を支援します。

1. 環境・生態系保全

① 水域の保全

藻場、サンゴ礁の保全、魚介類の放流等の活動を支援します。

② 水辺の保全

干潟、ヨシ帯の保全、内水面の生態系の維持・保全、漂流漂着物の回収・処理等の活動を支援します。

2. 海の安全確保

国境・水域の監視、海の監視ネットワーク強化、海難救助等を支援します。また、これらの活動に必要な資機材の購入を支援します。

※ 上記の1及び2に併せて実施する多面的機能の理解・増進を図る取組を支援します。

<事業の流れ>



<事業イメージ>



藻場の保全（ウコの駆除）



漂流漂着物の回収・処理



ヨシ帯の保全



干潟等の保全（干潟の耕うん）



災害時の流木の回収・処理



国境・水域の監視

三重県での取組（ソフト対策）

・干潟の保全

赤須賀漁業協同組合青壮年部研究会
（桑名市）

活動内容：

ハマグリ（ハマグリ）の種苗放流、浮遊堆積物除去、
地元小学生等を対象とした干潟観察会



・藻場の保全

浦村地区藻場保全活動組織（鳥羽市）

活動内容：

地元小学生とのアマモ場の観察会、
地元中学生とアマモ種を採集ゾステラ
マット等を用いて播種



三重県での取組

・ 今後の干潟・浅場の造成

平成27年から水産研究所により松阪地先において砕石を敷設した砕石漁場を造成し、稚貝の生残と成長の効果を確認する調査が実施されており、生残率に対する砕石の有効性が確認されています。

次年度以降、実施を予定している干潟・浅場造成では、これらの技術・手法に基づき実施していく予定です。

